

【今日の説教から】

先週の箇所でパウロはこう語りました。「わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。…キリストとその復活の力とを知り、その苦難にあづかって、その死のさまとひとしくなり、なんとかして死人のうちからの復活に達したい」

そして、今日の箇所でも彼はこう言っています。

「後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目指して走り」彼はキリストに出会うまではさまよっていた者でしたが、今はキリストとその復活の力によって生きるようになりました。しかし今日の箇所にありますように、彼はキリストのしもべとして力強く生き、多くの神様のわざを現しましたが、「すでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めている」というのです。そうするのは「キリスト・イエスによって捕えられているから」。

唯々彼はキリストによって捕らえられ、堅く主の手に留められていればこそ彼は進むのであり、彼自身としては完全に至るなんてとんでもないと言うのです。それでは修練は無意味なのでしょうか。彼はこう言います。「ただ、わたしたちは、達し得たところに従って進むべきである」そうして歩みつつ、天の故郷を見上げつつ、主の到来と共に「わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さる」日を待ち望むのです。

皆様おはようございます。

だいぶ朝晩は涼しくなってまいりました。お変わりなくお過ごしでしたか。

もう2か月もすればクリスマスの礼拝を捧げるようになるわけで、今年もパタパタと過ぎていきそうな予感がいたします。この秋の良い季節、一日一日が健康で実り多い日となりますようにと祈ります。

さてピリピ書の3章の最後となり、その後は残すところ1章となりました。

先週の箇所では、パウロによるかつての自分の回顧を読みました。

3:3 神の靈によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇とし、肉を頼みとしないわたしたちこそ、割礼の者である。

3:4 もとより、肉の頼みなら、わたしにも無くはない。もし、だれかほかの人が肉を頼みとしていると言うなら、わたしはそれをもっと頼みとしている。

3:5 わたしは八日目に割礼を受けた者、イスラエルの民族に属する者、ベニヤミン族の出身、ヘブル人の中のヘブル人、律法の上ではパリサイ人、

3:6 熱心の点では教会の迫害者、律法の義については落ち度のない者である。

3:7 しかし、わたしにとって益であったこれらのものを、キリストのゆえに損と思うようになった。

3:8 わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためにあり、

3:9 律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。

わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値。わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさ。これが彼の人生を一変させました。何を失っても損とは思わない。むしろかつて得と、益と思っていたものが、キリストのゆえに今はことごとく損と思うようになった。

「律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるため」。かつては自分自分だった。律法の理解も自分勝手だった。そしてさまよっていた。求め続けても手の中には何もなかった。しかし今、私は「キリストのうちに自分を見いだ」している。ここにパウロの保証があり、喜びがあり、安心と喜び、平安があるのです。

3:10 すなわち、キリストとその復活の力とを知り、その苦難にあづかって、その死のさまとひとしくなり、

3:11 なんとかして死人のうちからの復活に達したいのである。

キリストのもとには復活の力が働いています。パウロは獄の中にあり、彼の先行きには暗雲が立ち込めていたのかもしれません。彼は死を意識していました。しかし彼は復活の力をそれに勝って意識していました。

3:12 わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めているのである。そうするのは、キリスト・イエスによって捕えられているからである。

そして人生の総決算と言いますか、その人生を振り返って彼は今になってもなお、「すでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求める」と語ります。これは実に意味深い言葉です。彼は先にその言葉を引用しましたように、「律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義」を求めていました。彼は自分の良き行いによって義とされ、何の落ち度もないと信じ切っていましたが、それは甚だしい誤りであることを知らされました。キリストのうちに自分を見いだす。その苦難にあづかって、その死のさまとひとしくなり、なんとかして死人のうちからの復活に達したい。キリストとその復活の力とを知っているからと、彼は語ります。

3:12 わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めているのである。そうするのは、キリスト・イエスによって捕えられているからである。

完全な者にならない、捕らえようとも捕らえ切れずに、捕らえようとして追い求め続ける生活。そういう在り様を皆様方はどのようにお感じになられるでしょうか。ゴールが見えなければやっていて意味がないと思われるでしょうか。ゴールに到着できないなんて、すべては徒勞で不確かだと思われるでしょうか。しかしこの12節の最後にはこう書いてあります。

そうするのは、キリスト・イエスによって捕えられているからである。
自らが捕らえようとして、捕らえ尽くすのではなくて、そうできないとしても、そうして何とかかんとかしている私たちを神様が、イエス様が捕らえていてくださっているということなのです。

イエス様が私たちを手の中に収めて、守っていてくださる。私たちはその手の中で、主が捕らえていてくださる中で、はるかかなた先の、ゴールの白線が見えないくらい果てしない先のゴールかもしれません、イエス様が私たちと共にいてくださり、助けてくださるのなら、私たちをしっかりととらえていてくださるのなら、その旅路を辿って行けるのです。

3:13 兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。
すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、
3:14 目標を目指して走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。

パウロの後ろにはいろいろなことがありました。義を追い求め、落ち度内自分を誇ったこともありました。その働きの盛んなることにも誇りを感じていたことでしょう。しかし今彼の目標はイエス・キリストご自身に変わったのです。彼は後ろのものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目指して走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。

キリスト・イエスが彼の目標。たどり着く先としては遙かに先を行くような神々しい存在です。しかし彼を目当てに進むとき、やがて点に挙げられ、そこで褒賞を頂くことが出来るのです。やがて天にてイエス様を見て離れなかった私たちのために褒賞が待っているのです。

3:15 だから、わたしたちの中で全き人たちは、そのように考えるべきである。しかし、あ

なたがたが違った考えを持っているなら、神はそのことも示して下さるであろう。

3:16 ただ、わたしたちは、達し得たところに従って進むべきである。

「すでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めている」、わたしたちの中で全き人たち、完全に成長し、成熟した者は、そのように考えるべきである。ただ、「達し得たところに従って進むべきである」。

まだ得ていない、達していない、不完全だと手探りをしながら進むような不完全な歩みであったとしても、達し得たところもまたあるということに慰めを感じます。私たちは、まだ分からぬ、まだ何も得ていない、理解していないと言いながらも、達し得たところをも持っているのです。なだらかな螺旋階段を行く道が単調で、何か同じところばかりぐるぐると回って、同じことの繰り返しで何の進歩がないように見えても、気が付けば外の景色は下界と全然異なっていたというのと同じように、「すでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めている」、イエス様に捕らえられた、イエス様と共に生きる生活の日々のうちには私たちは達し得た生活というものがあると聖書は語ります。その経験と感謝と恵みの教えるうちに進みなさいと聖書は語ります。私たちはずっと同じように感じられても、決して同じではないのです。成長しているのです。キリストが私たちを捕らえていてくださるからです。

3:17 兄弟たちよ。どうか、わたしにならう者となってほしい。また、あなたがたの模範にされているわたしたちにならって歩く人たちに、目をとめなさい。

今日の箇所には、最初に「捕らえる」「追い求める」という語が連なっていました。続いて「考える」という言葉があり、「歩く」、人生を進むという言葉が連なりました。私たちはキリストの愛と守りによって捕らえられています。そのことを心深く考え、心に留めて、キリストに目を留め、キリストに倣っている人に目を留めて、私たちは人生を歩み、自らの行動を定めていきたいと願います。

3:18 わたしがそう言るのは、キリストの十字架に敵対して歩いている者が多いからである。わたしは、彼らのことをしばしばあなたがたに話したが、今また涙を流して語る。

3:19 彼らの最後は滅びである。彼らの神はその腹、彼らの栄光はその恥、彼らの思いは地上のことである。

キリストに倣わずに生きるということはどういうことでしょうか。それは罪の赦しであるキリストによる贖いの十字架を軽んじ、自らの罪を認めず、自らの思いを神として自分中心に生き抜く生き方です。現世的、刹那的な自己中心の生き方です。神も隣人も顧みない生き方です。自分の欲望を追い求める生き方です。その生き方は最後に破滅と滅びを招きます。

パウロは涙ながらにそのような生き方に戻ることのないようにと語ります。それはキリストを否定して敵とする生き方だからです。

3:20 しかし、わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる。

3:21 彼は、万物をご自身に従わせうる力の働きによって、わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さるであろう。

この地上での生涯がすべてなのではない。私たちの市民権は天にあり、天に国籍も居場所もあるものであり、そこから主が私たちを迎えてくださるのを心待ちにしています。

私たちの卑しいからだ。恥をかき、面目を失うような卑しさを持ち合わせていながらも、求めながらも、慕いながらも、追及しながらも到達しきれず、時には逆行さえしながらまたも同じことを繰り返す私たちのみすぼらしさの中にあっても、それをやがて天にて神様のご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さる、その時が与えられていることを励みとし、私たちは「わたしにならう者となってほしい。また、あなたがたの模範にされているわたしたちにならって歩く人たちに、目をとめなさい」との励ましにより、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目指して走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めて進み、人生を歩んでいこうではありませんか。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。神様は私たちが不完全であっても、いつも変わらずに、見捨てずに私たちを御手の中に導いていてくださいます。どうぞ私たちをとらえ続け、復活の力のうちに導き続け、この至らない様を、主の来臨の時には御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださいり、天の国籍を持つものとしていつまでも安らかに過ごさせてください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン